

## 研究に関する情報公開

<人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

### <研究課題名>

COVID-19 と放射線治療に関する研究

### <研究機関・研究責任者名>

日本大学医学部附属板橋病院 放射線治療科  
(研究責任者)日本大学病院 放射線科 石橋 直也

### <研究期間>

承認日 ～ 令和7(2025)年5月31日

### <研究の目的と意義>

2019年12月に中国のWuhanで新型coronavirusであるsever acute respiratory syndrome coronavirus-2(SARS-COV-2)によるcoronavirus disease 2019(COVID-19)が報告されて2年半となります。この間世界中でpandemicを引き起こし日本では2022年6月18日までに感染者は8,972,654例にのぼります。放射線治療は手術、薬物療法と並ぶがん治療の3大治療法の1つで放射線治療を受ける患者数は年々増加傾向にあり日本では年間約30万人が受けます。乳癌、局所進行肺癌など多くの癌治療において放射線治療が標準治療として組み込まれています。そこで我々はまずCOVID-19拡大前後の放射線治療患者数の推移および放射線治療時のCOVID-19スクリーニング検査の結果を解析します。

また肺に照射された場合の肺への毒性とCOVID-19肺炎とは免疫応答の過活動という共通の機序が指摘されています。そこで肺に照射された患者のうち放射線治療開始前、中、終了後にCOVID-19と診断された患者についてCOVID-19肺炎と肺の照射線量と放射線肺臓炎について評価します。また近年放射線肺臓炎のバイオマーカーとして肺胞より産生される血清タンパク(SP-A and SP-D)が注目されています。一方COVID-19肺炎においても肺胞の変化が確認されています。そこで我々はCOVID-19患者については放射線治療開始前あるいは中あるいは終了後の血清SP-AとSP-Dも評価します。本研究の結果によっては本邦の放射線治療施設でのCOVID-19の実態とCOVID-19患者に対する放射線治療の安全性が判明する可能性があります。

### <利用する試料・情報の項目>

日本大学医学部附属板橋病院で放射線治療を行った患者さんについての臨床情報やCTの画像データや放射線治療データを利用します。

### <対象となる方>

2019年1月1日～西暦2024年5月31日の期間に日本大学医学部附属板橋病院で放射線治療を開始した方

### <研究の方法>

日本大学医学部附属板橋病院で放射線治療を行った患者さんについて臨床情報やCTの画像データと放射線治療の有害事象や予後について検討します。

<お問い合わせ窓口>

日本大学病院(東京都千代田区神田駿河台 1-6)

放射線科 氏名:石橋 直也

電話:03-3293-1711(内線 4740PHS5525)